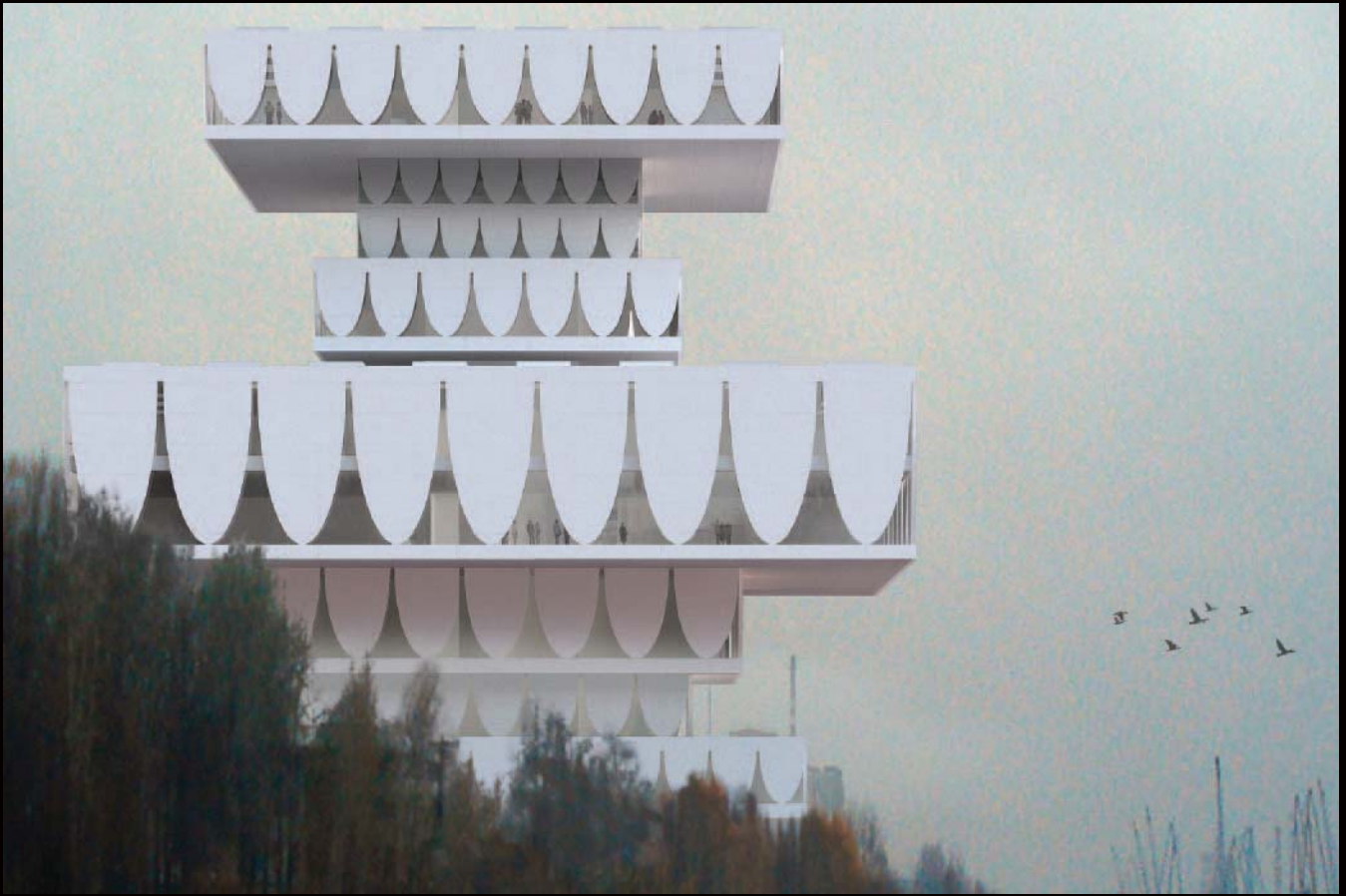


# Valerio Olgiati



①ベルミ 21 世紀美術館 ベルミ/ロシア 2008 Perm Museum XXI, Perm, Russia 2008 Rendering:© Total Real AG

## ヴァレリオ・オルジャティ展

2011年11月1日(火) - 2012年1月15日(日)

東京国立近代美術館 ギャラリー4 (2階)

- ヘルツォーク&ド・ムーロンやピーター・ズントーの次の世代を代表するスイスの建築家。
- 日本を大好きな建築家。彼が敬愛するのは、出雲大社、篠原一男、安藤忠雄、そして腰掛蟻継。
- オルジャティは今回が初来日。講演会も、特別に、夜に開催いたします。
- 展示される模型の一部は、妹島和世さんがディレクターを務めたヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展にも出品されていました。
- カタログには、オリジナルのインタビューを掲載予定です。
- 世界でもっとも有名な建築雑誌のひとつ『El Croquis』の最新号はオルジャティ特集です!
- 本展は国際巡回展の最終会場。日本国内でも東京のみとなります。
- 東京国立近代美術館としては、2001年のリニューアル以来、3つめとなる建築展。これまでと同様に、「美術館ならではの建築展」を考え、提案します。
- 東京では、ほぼ同時期に、いくつもの建築展が開催されます。

### お問い合わせ先

イメージ貸出・取材：企画展室  
PHONE: 03-3214-2561(代表)

FAX: 03-3214-2576

EMAIL: [pr@momat.go.jp](mailto:pr@momat.go.jp)

記事を掲載していただける場合  
読者プレゼント用に  
招待券をお渡しできます

タイトル	ヴァレリオ・オルジャティ展
会期	2011年11月1日(火)～2012年1月15日(日)
開館時間	午前10時から午後5時まで 金曜日は午後8時まで (入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日 [2012年1月2日、1月9日は開館]、年末年始 [12月28日(水)～1月1日(日・祝)]、1月10日(火)
主催	東京国立近代美術館、スイス連邦工科大学チューリヒ校建築理論・建築史研究所
助成	スイス大使館、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団、スイス連邦工科大学チューリヒ校建築学科
会場	東京国立近代美術館 ギャラリー4 (2階)
アクセス	東京メトロ東西線竹橋駅1b出口 徒歩3分 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
観覧料 *所蔵作品展 を含む	観覧料：一般420円(210円)／大学生130円(70円) *( )内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 *高校生以下および18歳未満、65歳以上、キャンパスメンバーズ、MOMATパスポートをお持ちの方、障害者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料。 *上記料金で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「近代日本の美術」もご覧いただけます。
無料観覧日	11月3日(木・祝)、11月6日(日)、12月4日(日)
お問合せ	03-5777-8600 (ハローダイヤル)
HP	<a href="http://www.momat.go.jp">http://www.momat.go.jp</a>
記者内見会	2011年10月31日(月) (17:00～ 記者発表を兼ねた、担当学芸員による会場ツアーを開催。ヴァレリオ・オルジャティ氏、企画者のローラン・シュトルダー博士も同伴する予定です)
イベント 講演会など	講演会 11月1日(火) 19:00～20:15 ヴァレリオ・オルジャティ(建築家)「75分間」*日英同時通訳付  地下1階講堂 要申込(応募者多数の場合は抽選)聴講無料(130名) (参加者は講演会終了後午後9時まで本展覧会を無料でご覧いただけます)  申込方法： メールの場合 件名を「オルジャティ展講演会申込」とし、本文に氏名、ふりがなを明記のうえ1101@momat.go.jpにお送りください。携帯電話のメールアドレスでご応募の方は、必ず@momat.go.jpからのメールを受け取れるよう設定をお願いいたします。 郵便往復はがきの場合 「往信用裏面」に氏名、ふりがな、電話番号を、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記のうえ、下記までお送りください。 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1 東京国立近代美術館「オルジャティ展講演会」係  締切：10月19日(水)(メールの場合は午後12時。はがきの場合は当日消印有効。) *応募は一人さま1回、1通につき1名までとさせていただきます。 *個人情報につきましては、講演会申込手続きのみに利用させていただき、その他の目的による利用は一切行いません。  担当学芸員によるギャラリー・トーク *いずれも参加無料(要観覧券)、申込不要 11月5日(土) 14:00～15:00 / 11月11日(金) 18:00～19:00 12月9日(金) 18:00～19:00 / 1月6日(金) 18:00～19:00 保坂健二朗(東京国立近代美術館研究員、本展担当者)
同時開催	「ぬぐ絵画—日本のヌード1880—1945」(企画展ギャラリー) 2011年11月15日(火)～2012年1月15日(日) 所蔵作品展「近代日本の美術」2011年10月29日(土)～2012年1月15日(日)
次回展覧会	「生誕100年 ジャクソン・ポロック展」2012年2月10日(金)～5月6日(日) 企画展ギャラリー(1階) 「原弘展」(仮称) 2012年2月3日(金)～5月6日(日) ギャラリー4(2階)

## まずはヴァレリオ・オルジャティの略歴をご紹介します

1958年スイスの古都クールに生まれたヴァレリオは、スイス連邦工科大学チューリヒ校（ETH, Zurich）で建築を学びます。チューリヒ、そしてロサンゼルスで働いた後、1996年自らの事務所をチューリヒに開設。2008年以降は、故郷のフリムスを拠点とします（チューリヒからは、電車とバスを乗り継いで2時間ほどかかる場所です）。

主な建築作品には、《学校》（パスペルス）、《黄色い家》（フリムス）、《リナルド・バルディルのアトリエ》（シャランス）、《スイス国立公園ヴィジターセンター》（ツェルネッツ）、《プランタホフ農業学校の講堂》（ランドクアルト）などがあります。2002年からは、スイス・イタリア語圏にあるメンドリジオ建築アカデミーの教授を務め、2009年には客員教授としてハーヴァード大学で教鞭を執りました。



オルジャティ氏近影 © Alberto Venzago

## ヴァレリオをめぐるトリヴィアをちょっとだけ

### ★猫の名は「SUBARU」

オルジャティが自宅で飼っている猫の名前は「SUBARU」と言います。なぜと聞いたら、オルジャティが住んで事務所をかまえている一帯は、スキー場があるような場所なんです。それゆえ4WDのスバル車がたくさん走っていて、その名前の響きが気に入ったからとのこと。日本の建築が好きなオルジャティらしい話ですね。

### ★丹下健三ともつながっている！？

ハーヴァードで教えていたときのポジションの名前は「丹下健三チェア・プロフェッサー」、日本との不思議な縁を感じさせます。

### ★お父さんも建築家、村の人達に愛されていました

ヴァレリオ・オルジャティの父親、ルドルフ・オルジャティも建築家でした。ヴァレリオと同じくフリムスに事務所をかまえていたルドルフは、伝統的な様式とモダニズムの価値観を融合させるのに長けた建築家でした。それゆえ、同地の住宅の設計を数多く依頼されており、ある集落を訪れると、そのほとんどがルドルフの作品だったりもします。

## 展覧会について

作品を発表するたびに話題を集める建築家、それがヴァレリオ・オルジャティです。彼が今事務所を構えているのは、グラウビュンデン地方の山里であるフリムス。このことからわかるように、オルジャティは、時流にとらわれることなく、建築の本質と向き合い続けてきました。

その建物の特徴は、「概念性」と「職人性」と「芸術性」とが高いレベルで融合しているところにあります。篠原一男（1925-2006）や安藤忠雄（1941-）などの影響もうかがえる幾何学的なプラン（平面図）に、時には土着的と思える形や模様を与えていくオルジャティの建築は、過激さと懐かしさとおかしみを同時に備えることに成功しています。そこで求められているのは、新しい建築などではなくて本当の建築である、そう言い換えることもできるでしょう。

本展に展示されるのは、模型と図版です。と書くと、普通の建築展のように聞こえますが、これはヴァレリオ・オルジャティの、美術館で開催される展覧会。もちろん違います。模型は、小さな住宅も、大きな美術館も、すべて同じ1:33の縮尺でつくられていて、細かい部分は省略され、まるで彫刻のように見えます。白くて美しい模型9点を前にすると、建築の強度とはいったいなんによるのかと、考えさせられることでしょう。

そして図版。これは、オルジャティが自らに影響を与えたものとして集めた、建物や庭園や空間や絵画などのイメージによって構成されています（それを彼は「図像学的自伝」と呼んでいます）。古今東西のさまざまなイメージが水平にひろがる中に、模型が、あるいは「建築」が、垂直に立っている。この対照性が本展の特徴です。

この展覧会は、オルジャティ本人との密接なやりとりのもと、スイス連邦工科大学チューリヒ校（ETH, Zurich）建築理論・建築史研究所（gta）によって企画されました。スイス連邦工科大学（チューリヒ）から出発し、ロンドンの英国王立建築家協会（RIBA）などを経て、当館が最終会場になります。しかもオルジャティは、日本会場のために、ふたつ模型を追加してくれました。

## キュレーターよりプレスのみなさまへ

「ヴァレリオ・オルジャティ」。あまり聞いたことのない名前かもしれませんが、イタリア系の名前のように聞こえますが、彼は、スイス生まれの、スイスに拠点を置く建築家です。

スイスの建築というと、ピーター・ズントー（ペーター・ツムトーア 1943年生まれ）やヘルツォーク&ド・ムーロン（ジャック・ヘルツォーク、ピエール・ド・ムーロン ともに1950年生まれ）の名前が、日本でも良く知られているでしょう。1958年生まれのオルジャティは、その次の世代に属する建築家です。

彼が発表している作品は、プロジェクトを含めたとしても決して多くはありません。むしろ少ないくらいです。しかし建築の世界では、今、最も注目されている建築家のひとりだと言ってよいでしょう。たとえば、世界でもっともプレステージの高い建築雑誌である『El Croquis』も、最新号で特集しています。

時流にとらわれずに山里で「建築」に向き合い続け、「私は建築のために生きている。そして文字通り、建築のために死ぬだろう」とすら語るオルジャティがデザインすると、すごく幾何学的で抽象的な形が、なぜかユーモラスで、時には民族的に見えてきます。そんなちょっと不思議でとても魅力的な世界を、少しでも多くの人に知っていただける機会をつくっていただければ幸いです。



スイス連邦工科大学（チューリヒ）での展示風景、2008年  
© Walter Mair

## オルジャティの建築のご紹介

### ★春と冬で階数が変わるんです

水に浮かんでいるようなこの建物。一階建てに見えますが、渇水期（冬）には、下の部分が現れるというすごい建物です。雪解け水による自然の変化をうまく使っているという点では、スイス的と言えるでしょうか。残念ながら、諸事情あって実現しませんでした。



②カウマ湖のプロジェクト フリムス/スイス 1997  
The Lake Cauma Project, Flims, Switzerland 1997  
Rendering: ©Meyer Dudesek Architekten

### ★CGでも、騙し絵でもありません

右と左に分かれ行く階段……よく見ても、まんやかに鏡はありません。CGでもありません。この厳密に左右対称な階段を（しかも線遠近法を強調して、先が細く＝狭くなっていく階段を）、オルジャティは実際に設計したのです。しかも、スイスで唯一の、国立公園のヴィジターセンターを兼ねたミュージアムとして！（これは実現しています）



③スイス国立公園ヴィジターセンター ツェルネット/スイス 2002-08  
National Park Center, Zermatt, Switzerland 2002-08  
Photograph: © Javier Miguel Verme

### ★スイス版看板建築？

赤い壁に散らばる模様。抽象的なのに、懐かしく、それに楽しい感じもします。屋根をよく見ると、左側に「山型（切妻）」はありますが、真ん中は抜けていることに、つまりどうやら屋根がないことに気づきます。実はこの建物のある村（シャランス）では、景観を守り続けるために、建物の外形を変えてはいけないう決まりがあるそうなのです。オルジャティはその条件を逆手にとって、大きな中庭を持つアトリエを、ミュージシャンのためにつくりました。写真に見える扉を開けて出会うのは、室内ではなくて、光の降り注ぐ庭なのです。



④リナルド・バルディルのアトリエ シャランス/スイス 2002-07  
Atelier Bardill, Scharans, Switzerland 2002-07  
Photograph: ©Archive Olgiati

To: 東京国立近代美術館 広報担当行 (FAX: 03-3214-2576)

## 申込書 「ヴァレリオ・オルジャティ」展

御依頼者氏名 \_\_\_\_\_ 貴社名 \_\_\_\_\_

御住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_ (内線 \_\_\_\_\_) FAX: \_\_\_\_\_

email: \_\_\_\_\_

出版物・放送番組名: \_\_\_\_\_

発行・放送予定日: \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_ ~ \_\_\_\_\_ :

プレス内見会 申込	
<input type="checkbox"/>	参加します
<input type="checkbox"/>	会場撮影を希望します 人数: _____ 人 駐車場使用(車種/ナンバー): _____ 撮影機材(照明はUVカット、熱吸収の仕様が条件となります): _____

広報用写真 申込	
①	ペルミ 21 世紀美術館 ペルミ/ロシア 2008 Perm Museum XXI, Perm, Russia 2008 Rendering: © Total Real AG
②	カウマ湖のプロジェクト フリムス/スイス 1997 The Lake Cauma Project, Flims, Switzerland 1997 Rendering: © Meyer Dudesek Architekten
③	スイス国立公園ヴィジターセンター ツェルネッツ/スイス 2002-08 National Park Center, Zerne, Switzerland 2002-08 Photograph: © Javier Miguel Verme
④	リナルド・バルディルのアトリエ シャランス/スイス 2002-07 Atelier Bardill, Scharans, Switzerland 2002-07 Photograph: © Archive Olgiati
	読者プレゼント用招待券 _____ 組 _____ 名 ( _____ 枚)

### プレス・イメージ貸出条件

1. 写真は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。
  2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。
  3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。
  4. 作品写真は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
  5. 写真を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。
  6. 掲載紙(誌)は、1冊、企画展室宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。
- \* 画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。  
\* 掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

<報道関係のお問合せ> 東京国立近代美術館 企画課 企画展室  
〒102-8322 千代田区北の丸公園 3-1 TEL: 03-3214-2561 / FAX: 03-3214-2576